

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

霧。この濃霧について、僕は何を考えているのでしょうか。夜の明けるころには、ただ急に晴れ渡ってくれることをねがって、苛々いらいらしてしまいましたけれど、もう諦アめるより仕方がないと決めると、ただ、山での行動を奪われたことを嘆イいてばかりもいられません。

僕は、人間が、より多くのものを、より遠くのものを得ようとする意欲がどんなに強く、そして、その中で自分の行動を測ウりながら生きていることを考えていました。それは改めて考えるほどのことでもないのですが、時には、自分から望んで、自分をこのような霧の中へ追い込むこともしているのではないかと思ったのです。見てはならないもの、見えても見てはならないもの、耳を持っていても聞いてはならないものがある時、その人は思うがままに焦エ点を合わせることに、耳をそばだてることを自分から禁じなければなりません。

その時、霧の向こうにあるものに期待をよせていることがどんなに辛いことかを知ります。霧の彼方オにはすばらしい山があるはずだと思って自分を不幸にするよりも、今は感覚の一部分を自然にあずけてそれを特別に不自由なことと思わず、許された範囲のことを、許された力だけで考えるのを悦ホぶことにしましょう。全部そろった絵の具で絵をかくよりも、ときには青とグレーAだけで描く絵が自分に何かを発見させてくれるかも知れませんか。

（串田孫一『山のパンセ』から）

問一・傍線部ア、オの漢字の読みを記しなさい。

問二・傍線部Aで筆者が言いたかったことはどのようなことか。本文中の語句を用いて八〇字以内で説明しなさい。

問三・筆者のこのような考え方が当てはまる場面を、あなた自身の生活の中に求めるとすれば、どのようなことがあるか。四〇〇字程度で紹介しなさい。